

愛宕さま

富谷を歩く

今月下旬の富谷区愛宕神社祭礼、籠部田区星宮神社祭礼に続き、8月の八重垣神社祇園祭と夏祭りの季節を迎えます。

「千葉県宗教法人名簿」に登録された市内66社のうち、愛宕神社は富谷区の1社のみで、明治の「千葉県神社明細帳」にはこれに加え、

大寺村の1社が記載されています。全国に約900社あるとされる愛宕神社の総本社は京都市にあり、古くから火除け祈願の「愛宕さん」と呼ばれ

信仰されています。

富谷区の愛宕神社の詳しい由緒は分からないとされるものの、1591(天正19)年の「富谷村検地帳」に「別当」とあり、このころ既に「愛宕山大神権現」がまつられていたようで、江戸時代は持福寺が管理していました。

社殿は1711・1715(正徳元・5)年ごろに再建され、1758、1759(宝暦8、9)年に改修、その際に愛宕山大権現にまつられる「勝軍地藏」の信仰が近隣にも広まっていたとされます。境内の1984(昭和59)年「御改修記念碑」によると、現在の社殿は1849(嘉永2)年に再建されたとあります。

1840(天保11)年2月「八日市場の大火」の際、白馬に跨がった勝軍地藏が愛宕山大権現から石段を駆け下り、村境に現れたことで延焼を免れたと伝わり、境内に「ひづめの跡」とされる石段があります。33年ごとの愛宕神社大祭は最近では1995(平成7)年に行われ、本殿や境内などが整備されました。

東京・愛宕神社の「千日詣り・ほおずき縁日」が6月23、24日に行われることで、富谷区愛宕神社祭礼も月遅れの同日が縁日となり、神輿渡御も八重垣神社祇園祭の神輿が見徳寺門前に入った1713(正徳3)年ごろから始まったのでは、想像が膨らみます。

(市文化財審議会委員・依知川雅二)

閩秘書課広報広聴班 ☎73・0080



愛宕神社の社殿